

共につくる。
まるごと元気！多治見

80th Anniversary
Tajimi City

CONTENTS

- 多治見らしさ
- 04-05 生活利便性と自然環境が調和するまち
 - 06-07 美濃焼の伝統を引き継ぐまち
 - 08-09 子育てしやすいまち
 - 10-11 中心市街地も郊外地域も住みやすいまち
 - 12-13 交通アクセスに優れたまち
 - 14-15 市民活動が活発なまち
 - 16-17 多治見よろずマップ
 - 18-19 彩時記 -年間主要行事-
 - 20-25 多治見市80年のあゆみ
 - 26-27 ABOUT! TAJIMI CITY たじみって、どんなところ??
 - 28-29 あのひと このひと たじみすと -多治見市観光大使-
 - 30 Message 市制80周年シンボルマーク デザイナーからのメッセージ
 - 31 数字でわかる多治見市80年の推移

本市の玄関口であるＪＲ多治見駅周辺では、多治見駅南地区の再開発事業が進んでおり、新たなまちのにぎわいが生まれようとしています。

多治見市長 古川雅典

子育て世代が住みたいと思えるまちづくり、子ども、女性、高齢者、障がい者など、皆が元気に暮らせるまちづくりを目指して、中心市街地と郊外地域が連携する「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成、子育て・子育てを後押しする施策、広域連携による観光誘客を促す施策などを推進していきます。

令和2年度から「共につくる。まるごと元気！多治見」を基本方針とした第7次総合計画後期計画をスタートしました。策定にあたっては、国連での「持続可能な開発目標（SDGs）」の採択や国が目指す「Society 5.0」のような時代の流れを踏まえ、次世代に引き継ぐ「多治見らしさ」を大切にしながら、人口減少対策や地域力の向上などの視点で前期計画を見直しました。

また、全国的な少子化や高齢化、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大による多方面への影響により、将来を見通すことが難しい状況です。

名実ともに東濃地方の中核都市となりましたが、令和2年4月には人口が11万人を下回り、減少傾向となっていま

当時3万人足らずであった人口は、第2次世界大戦後に地場の陶磁器産業が活気を取り戻し発展したことや、昭和50年代以降に宅地開発が進んだことで急増しました。また、平成18年には土岐郡笠原町と合併し、人口は11万7千人を超えました。

この市勢要覧は、市民の皆さんと多治見市の歩みや現在の姿を共有するものです。このまちで生まれ育った子どもが、多治見を誇りに思い住み続けたいと思うまち、市外の人が移住したいと思う魅力あるまちとなるよう、皆さんと共に実行、実践していきましょう。

多治見市は、昭和15年8月に岐阜県下で4番目の市として誕生し、今年で80周年を迎えました。

